

厚生文教常任委員会視察報告書

葛城市議会

厚生文教常任委員会

令和6年度視察研修概要

〈日程〉 2024年（令和6年）5月13日（月）・14日（火）

〈研修先〉 1日目： 広島県府中市
2日目： 岡山県真庭市

〈参加者〉 厚生文教常任委員会 7名

藤井本浩委員長	柴田三乃副委員長	
坂本剛司 委員	杉本訓規 委員	梨本洪珪 委員
松林謙司 委員	増田順弘 委員	

〈随行者〉 西川勝也 市民生活部長 西川基之 上下水道部水道課長補佐

板橋行則 議会事務局長

Ⅰ 日目 広島県府中市 i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）



Ⅰ. 広島県府中市の概要

豊かな自然と歴史的な背景を持つ魅力的な都市です。

基本情報

- **所在地**: 広島県東部
- **人口**: 35,585 人（令和 6 年 4 月 1 日時点）
- **面積**: 約 195 平方キロメートル

地理

府中市は広島県の東部に位置し、福山市や尾道市と隣接しています。市内は山間部が多く、美しい自然環境が広がっています。

歴史

府中市は古くから城下町として栄え、歴史的な建造物や遺跡が多く残っています。

経済

府中市は農業や製造業が主要な産業となっています。特に農産物では米や野菜、果物などが生産されており、地域経済を支えています。

2. 府中市 i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）視察の目的

あらゆる世代の住民が集い楽しむことができる場所を行政が提供している事例として、i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）に興味をもちました。また葛城市は子育てのしやすいまちとして、子育て世代が転入してくる奈良県下では唯一人口が増加している自治体ではありますが、他の自治体も様々な子育て支援に取り組んでいます。更なる支援に取り組むために、今の葛城市に足りない子育て支援の取り組みをしている i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）内にある府中市子育てステーションちゅちゅの事業を参考にしたいと考えました。



3. i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）について

府中天満屋が抱えていた課題；来店者数の減少とモノを売るだけではなくコト・モノ消費による活性化が必要である。

府中市の課題；駅周辺部において日中の若者や女性、子育て世代の回遊滞留が少ない。

こういった双方の課題解決のために生まれたのが i-coreFUCHU で、民間が提案し、スペースを無償寄附するという形で実現した官民連携の取り組みです。この施設は市民の交流や学びの場として設けられており、さまざまなイベントや活動が行われています。



i-coreFUCHU (いこーれふちゅう) 事業概要



所在地 府中市府川町186-1 府中天満屋2F

工事費 350,768千円

建物 鉄筋コンクリート造陸屋根3階建(昭和60年3月築)
 総床面積 27,011.26㎡
 (1階 9,103.13㎡、2階 9,321.73㎡、3階8,586.40㎡)
 (内) i-coreFUCHU 4,357.21㎡ (第1期整備約3,060㎡、第2期整備予定面積約1,300㎡)

駐車場 692台(平面221台、3階184台、屋上287台)

協力企業 【設計】株式会社 スペース大阪本部
 【監理】株式会社 スペース大阪本部
 【建築工事】株式会社 道下工務店府中営業所

年 月	トピックス
令和2年 2月	府中市と株式会社天満屋ストアとのまちづくりに関する協定書締結
令和2年12月	府中天満屋(建物)の寄附受納
令和3年 2月	工事請負契約締結・着工
令和3年 7月21日	第1期工事エリアオープン

提供：府中市役所商工労働課



i-coreFUCHU (いこーれふちゅう) 事業概要



名 称	整備面積	主 な 機 能(用途)
府中市子育てステーション ちゅちゅ	約620㎡	母子健康手帳交付、乳幼児健診、発達相談、子育て相談、乳幼児の遊び場、研修室
多目的室	約180㎡	会議、講座、教室
コミュニティスペース	約110㎡	コワーキング、自主学習、談話
芝生広場	1,160㎡	・イベント開催、展示、体操
・芝生広場		・キッズ遊び場、くつろぎ、おしゃべりスペース
・シンボリックツリー ・サンサン広場		・裸足で遊べる年齢別のキッズ遊び場
公衆トイレ	約90㎡	多目的…オストメイト水栓、フィッシングボード、子ども用便器 女性用…個室の子ども用便器、パウダースペース
その他施設	約900㎡	通路、倉庫
通信環境 【5G+高速フリーWi-Fi】	第1期整備エリア全域	
施 設		開館時間・閉館時間
開館時間 閉館時間	i-coreFUCHU (芝生広場、多目的室、コミュニティスペース、公衆トイレ、その他施設)	午前9時～午後8時(休館日なし)
	府中市子育てステーションちゅちゅ	午前9時～午後5時15分 ※ 休館…祝日・年末年始 第1・3・5日曜日 第2・4・5土曜日

提供：府中市役所商工労働課

4. 研修内容

<説明者> ネウボラ推進室 室長 正畑光代様
 経済観光部商工労働課 課長 掛江昌史様

広島県府中駅前の商業施設 府中天満屋 2 階に開設された i-coreFUCHU は広大な芝生広場や多目的室、コミュニティスペースが設置され、市民向けイベントが開催されたり、様々な講座や教室が開かれ市民の交流の場となっています。そこに併設された府中市子育てステーションでは、“妊娠期から未就学期までの切れ目のない支援体制”を提供しています。

● i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）

1) 学びとチャレンジの拠点

芝生広場でのイベントや作品の展示など
多目的スペースでのセミナーや講演会、会議
通路でのプロジェクションマッピングなど

現在、第2期整備が進められており、カフェスペースが設置される予定です。

2) 子育てステーションちゅちゅ

子育てステーションちゅちゅは、妊娠期から未就学期までの切れ目のない支援を提供しています。子育て中の親子が安心して過ごせる場所を提供し、地域の子育て環境をサポートするために設立されました。

施設内には、子どもたちが自由に遊べる広いプレイエリアがあり、安全性が考慮された遊具やおもちゃが揃っています。また親同士が交流できるスペースがあり、情報交換や相談ができる環境が整っています。



主なサービス

育児相談:専門のスタッフによる育児相談が受けられます。個別の相談も対応しています。

親子イベント:親子で参加できるワークショップやイベントが定期的に行われています。

情報提供:子育てに役立つ情報や子育て支援サービスに関する情報を提供しています。

講座・セミナー:子育てに関する知識を深めるための講座やセミナーが開催されます。

*令和5年6月より、一時預かり事業を開始

*府中市公式アプリ「My 府中」を活用した予約システムを採用

■ 主な質問と回答

1) 市外の方も利用可能でしょうか？その場合の料金設定は？

➡i-coreFUCHUの各施設利用については無料であったが、令和6年7月より有料となる。市外の方も利用でき、市内、市外の区別はない。子育てステーションちゅちゅに関しても、市外の方の利用も可能で、特に料金の差はない。その理由としては、市外の方が利用することにより、府中市の魅力を知ってもらい移住定住につなげていきたいと考えているためである。

2) 民間（天満屋ストア）と行政それぞれの課題解決のための官民連携事業であるが、その効果は？

➡販売創出という点では、あらゆる世代の方々に利用していただき、今まで足を運んでももらえなかった若者や子育て世代の方々にも来店していただいている。しかし、それが直接民間の利益につながっているわけではないので課題は残る。



■ 委員の所感

- ① 2階のフロアに入った瞬間から、芝生広場の広さと自由度に驚きました。市内にこのような場所があれば、若い世代の足は自然に向き、課題解決の目的は達成されていると感じました。天満屋の無償寄附を大前提とした施設ではありますが、双方の課題を解決する工夫が随所に見られ、現在も進化を続けていることが素晴らしいと思います。特に参考になると感じたのが、市民のアイデアを、イベントや施設整備に取り入れていることです。行政主導ではなく、民間事業者が積極的に関与し、市民参加型で施設の利活用を推進することは、賑わい作りの大きなヒントになると思います。残念ながら現在の葛城市内には、子ども連れの家族が、雨天の週末に遊べる施設がありません。この視察を参考に、市民のアイデアと既存の施設を掛け合わせることで、楽しめる場所づくりの設置を提言したいと考えます。
- ② 乳幼児用品(ベビーカー等)の無料貸し出しと、子育てハンドブックに注目した。民間の空きスペースを利用する(借りる)事業も参考になる。
- ③ オープンから35年が経過し、総合スーパー成熟期に建てられた府中天満屋は、大型専門店の影響を受け、テナントの空床が深刻化していた。加えて、ECサイトの浸透などにより、来店客数の減少リスクが顕在化、こうした中、府中天満屋は「モノを売る」という手法だけでは生き残れず、滞在空間や滞在時間を増やすための工夫を行い、コト消費・トキ消費による活性化が喫緊の課題であった。また、府中市の課題としては、これまで、府中市のまちなか全体、駅周辺部において、日中も夜も人通りが少なく、特に若者や女子、子育て世代の回

遊滞留が少ない状況であった。まちの発展を考えた際に、その場所自体が目的地となる拠点が、まちなかや駅周辺部に必要であるということである。

この、府中天満屋の課題と府中市の課題、それぞれの課題解決のために、この両者が官民連携しての取組み（いこーれふちゅう）として結実し、一定の結果が出ている良き成功事例であると思う。今後、第2期整備も予定されている、施設利用者の満足度も更に向上することが期待される。今回の視察研修で見聞したことを葛城市においても當麻文化会館の複合化、旧當麻庁舎跡地利用も含めての周辺施設の賑わいの創出、連携に生かしていきたい。

- ④ 過疎対策事業債を使っの施策。天満屋の寄附とのことで2階フロアを使用など、葛城市には当てはまらない条件が多いが過疎対策子育て支援の力の入れ様は参考になる。過疎債の使用条件は少しわからない点があるが府中市以外の人でも無料で使えるところは税の使いみちとしては疑問が残った。

- ⑤ 訪問したのは平日なので、i-coreFUCHUはそれほどの人は利用していなかった。しかし夕方になると学生が勉強に利用に来るという。土日祝日は市外からも天満屋の駐車場が無料なので、たくさんの人が来るらしい。子育てステーションちゅちゅの中を見させてもらったが検診の部屋、子育て相談の部屋等があり充実していると感じた。こんな子育て支援を府中市はしているが、出生数が増えていないのは、とても残念であると思う。

- ⑥ 府中市としては課題解決（人口減少・地域活性化・子育て支援）に向け財政負担を抑え、また天満屋においても業績不振の中、集客効果の期待できる構想であると感じた。ただ私からの質問で、天満屋の売り上げ増効果を問うたが期待ほどでもないとのことであった。

天満屋店内を物色したが説明にあったように客層もそうであるが、品ぞろえも高齢者志向の店舗が多くあるように感じたが、今後は幅広い客層を対象とした事業展開をすることで両者の当初の目標が達成できると感じた。

子育てステーションについては、子育て世代のニーズを的確にとらえられた運営のように感じた。具体的には一時預かり制度で、子供を預けて買い物ができるといふ事もあるが、子育てに疲れたお母さんの思いを的確に叶える運営形態のように感じた。

■ 委員長所感

民間と行政双方の課題解決のために生まれたのが i-coreFUCHU で、民間が提案し、スペースを無償寄附するという形で実現した官民連携の取組みで、柔軟な発想で行政側から流れを作っていくという積極的なアプローチがとてもユニークだと感じました。市民主体のイベントやセミナーが定期的に開かれ、確実にあらゆる世代の方々が集まる場所になっていると思いました。

i-coreFUCHU は正しく三方良しの発想での事業で、葛城市においても、民間の力を借りながら、市民サービスの向上ができる取組みができればと考えます。

i-coreFUCHU に併設された子育てステーションちゅちゅでは、保育士、保健師、公認心理師による支援がワンストップで受けることができ、妊娠前の不妊治療の相談から子育て相談までを一手に引き受けられている所が大変参考になりました。また葛城市ではまだない一時預かりや土日祝日のオープンも実現されていて勉強になりました。市内・市外を問わず利用できる点も、府中市を知ってもらい移住していただきたいという思いで解放されているということで、目的が明確でそのような考え方もあるということを感じさせられました。女性や小さなお子さんがいらっしゃる保護者、そして子どもたちに対してのきめ細やかなサービスが本当に印象的でした。子育てにやさしい葛城市ですが、まだまだできることはあると実感した視察研修でした。

2日目（午前）岡山県真庭市 バイオマスツアー/真庭あぐりガーデン



1. 岡山県真庭市の概要

真庭市は自然豊かで歴史と文化が息づく地域です。観光地としても魅力的で、多くの人々に親しまれています。

基本情報

- ****所在地****: 岡山県の北部に位置し、鳥取県と接しています。
- ****人口****: 41,260 人（令和 6 年 4 月 1 日時点）
- ****面積****: 約 828 平方キロメートル

地理

真庭市は豊かな自然に恵まれており、山々や川が美しい風景を形成しています。特に蒜山（ひるぜん）高原は有名で、観光地としても人気があります。

歴史

2005 年 3 月 31 日に、旧真庭郡の複数の町村が合併して真庭市が誕生しました。

経済

- **農業****: 真庭市は農業が盛んで、特に米や野菜、果物の生産が行われています。
- **観光****: 蒜山高原をはじめとする観光資源が豊富で、年間を通じて多くの観光客が訪れます。

2. 真庭市バイオマスツアーと真庭めぐりガーデンの視察の目的

葛城市は 2021 年に「ゼロカーボンシティ」宣言をしました。これからは循環型社会を見据えた取組みが大事になってきます。その中で SDGs を市の取組みとして実践されている真庭市の先進事例を参考にしたいと考えました。また食の大切さを知るための取組みも積極的に行われている真庭めぐりガーデンは、学校給食を考えるきっかけになると思いました。

研修内容

■ バイオ液肥実証プラント

<説明者> 真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合 山口浩様
 真庭観光局事業部マネージャー補佐 森脇由恵様

国の「地域循環型バイオガスシステム構築モデル事業」の採択を受け2015年7月より稼働しているメタン発酵プラントを視察。生ごみ収集からガス・液肥の生成までを行政と民間が仕組みを作り、液肥に関して地元農業者との連携を図り、循環型社会の形成に取り組む事例を学ぶ。

設立背景

真庭市は、地域資源を活用した循環型社会の実現を目指しており、その一環としてバイオ液肥実証プラントが設立されました。このプラントは、農業廃棄物や食品廃棄物などを原料としてバイオ液肥を製造することを目的としています。

主要な機能と目的

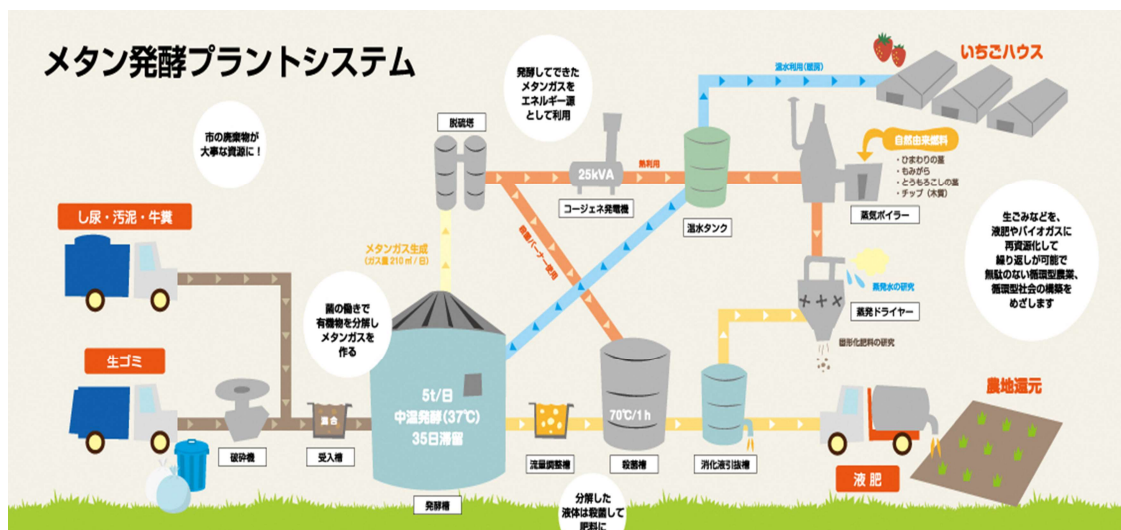
- 農業廃棄物や食品廃棄物を有効利用し、環境負荷を軽減する。
- 有機物を発酵させて液体肥料を製造し、地元農業の持続可能性を高める。
- 廃棄物の再利用と農業生産の効率化を通じて、地域全体の循環型社会の構築に貢献する。

プロセス

- 1) 収集: 地元の農業廃棄物や食品廃棄物を収集。現在 4,400 世帯の生ごみを週 2 回収集。
- 2) 発酵: 収集した有機物を発酵タンクで処理し、微生物の働きによって分解。発生したメタンガスは施設内のエネルギー資源として活用。
- 3) 液肥化: 発酵後の生成物を液体肥料として精製。
- 4) 供給: 製造されたバイオ液肥を地元農家や企業に供給。

利点

- 環境保護: 廃棄物のリサイクルによって埋立地や焼却施設への負担を軽減。
- 土壌改良: バイオ液肥は土壌の健康を改善し、作物の生育を促進。
- コスト削減: 化学肥料の使用量を減少させることで、農業経営コストを削減。



出典：真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合「メタン発酵プラント」（令和6年5月閲覧）

<http://xn--https-v63dse//maniwari-kyo.org/methane-fermentation-plant/>

■ 真庭あぐりガーデン

研修内容

<説明者> NPO 法人真庭あぐりガーデンプロジェクト様

循環型社会の形成の一環として、バイオ液肥で育てたお米や野菜の販売や、食の大切さを学ぶことができる体験型講座を数多く開催している。今回は特に食育に関して研修を受けた。

真庭あぐりガーデンは、地域の農業と観光を結びつけることで、地域活性化を目指しています。また、農業体験を通じて、都市部の人々に農業の大切さや自然とのふれあいを感じてもらうことを目的としています。

主な特徴と提供サービス

1) 農業体験

- 季節ごとの農作業体験ができるプログラムが提供されています。例えば、田植えや稲刈り、野菜の収穫などがあります。

2) 直売所

- 地元で採れた新鮮な農産物を販売する直売所があります。季節ごとの野菜や果物、加工品などが揃っています。



3) レストラン

- 地元の食材を使った料理を提供するレストランが併設されています。地元の新鮮な食材を使ったメニューが楽しめます。

4) イベント・ワークショップ

- 農業に関するさまざまなイベントやワークショップが定期的に開催されており、家族連れや観光客に人気です。

5) 観光・教育

- 農業体験を通じて、子供から大人まで楽しみながら学べる教育的なプログラムも充実しています。

■ 委員の所感

- ① ゴミの資源化はその地域の特性に沿った形で進める必要がある。食育の重要性は給食や家庭のみならず地域で取り組む必要がある。

- ② 真庭市のバイオマス事業は、地元の民間事業者そして、そこに行政や産学連携のしくみが「協働」する形で整備されてきた。真庭地域では、年間約 7 万 8 千トンもの木質副産物バイオマス発電、各種ボイラーに利用するなどの「エネルギー利用」をしてきた。「木質バイオマス地域内循環の実現」をはたしてきた。

また、「生ごみを資源としたバイオ液肥の利用と農業」ということで「市内の民間事業者が「真庭広域廃棄物事業協同組合」を設立、年間計画量 1,500 トンのモデルプランで、生ごみ、し尿、浄化槽汚泥をバイオ液肥にリサイクルし、田畑への肥料に使用、副産物のバイオガスは発電に利用している。

事業系、一般家庭からの生ごみの収集は、分別をしてしかも水切りをして収集をしてもらう必要がある。「持続可能・循環型社会」の実現のためには、民間事業者と行政の協働、そして地域住民の協力が必要であると思う。持続可能な循環型の構築には、地域住民の意識啓発のため啓蒙、周知が必要であると思う。

葛城市は、「ゼロカーボンシティ」宣言都市である。真庭市と葛城市の状況はそれぞれ違うが、真庭市での見聞を、葛城市においても「持続可能な循環型社会」の実現にむけて生かしていきたい。

- ③ 生ごみとし尿でエネルギーや肥料を作る施設だが葛城市では下水普及率が高く、し尿がないので同じ仕組みはできない。しかし市長の強い行動力と業者市民の方々と協力し生ごみを減らし燃えるゴミが減少した取組みは参考になり、葛城市でも生ごみを削減できる可能性が感じられた。今後可燃ごみの減少の取組みとしては業者が説明会をひらけばスムーズにいったなど参考点は多くある。

- ④ 生ごみを使ってバイオ液肥を作り、農業に利活用している。しかしバイオ液肥はチッソが主で、リン酸、カリ等は他の肥料から取得しなければならない。バイオ液肥だけで農作物を育てることができれば、肥料の価格が高騰している現代、農家はたいへん助かるのに、と思う。バイオ液肥だけで農作物を育てることもできるが、物足りない。

真庭あぐりガーデンでは、子ども、大人が米作り、みそ、塩、のりを作る体験に参加できる。しかし参加費は一人 2,500 円だ。ちょっと高いなと感じた。

- ⑤ 今回の視察については市の観光局の視察ツアーによるもので、真庭市の発想の豊かさと S D G s に対する取組みを地域産業発展に絡めた戦略に、首長の能力の

高さを感じた。また、徹底した循環型社会にこだわった姿勢は見習うところが多い。

現地視察で感じた発酵堆肥の臭気からみて、これを農地に堆肥散布することによる、周辺住民の苦情について、過去の新庄町時代に牛糞堆肥を圃場に散布したことで厳しいご意見があった経験から、本市での取組みは難しいと感じた。

堆肥の原料とされている浄化槽汚泥については下水道が普及している本市にとっては調達が困難であると思う。

農業の経費の主である肥料の高騰が進む中、堆肥による経費の低減策は農家にとってありがたい取組みであると思う。

- ⑥ 行政と民間事業者、市民といった真庭市全体でバイオマス事業に取り組み、地域循環型の仕組みが構築されていました。バイオ液肥を農業者に１０年かけて普及させるなど、ここに至るまでにはさまざまな苦難があったはずですが、真庭観光局をハブとする地域内マネジメントが、上手く機能していると感じました。以前から、真庭市のバイオマスを活かした街づくりや観光施策には興味がありましたが、行政主導というより、そこに住む様々な立場の人々が、誇りを持って取り組んでいることを実感しました。特に、今回の視察研修先の事業は、全て民間事業者が運営主体となっており、地元企業の多大なる貢献無くして成り立たないと思います。２０１８年、真庭市はSDGs 未来都市や脱炭素先行地域に選定されていますが、大きな成果を上げるために地域を巻き込んでいくことの大切さを実感しました。

■ 委員長の所感

本来ならゴミとして処理される家庭からの生ごみや、コンビニやスーパーなどの廃棄食品を使用して製造されるバイオ液肥やそれに伴って発生するメタンガスの利用は、循環型社会そしてサステイナブルな社会を構築する上で、目指していく姿であると考えます。葛城市においてもごみの分別は進んでいて、再利用もされているようですが、市民の方が実感できるような地域循環はまだできていません。市民への意識づけのためにも生ごみの水分を切る真庭市オリジナルのバケツは葛城市でも採用可能ではないかと思いました。

真庭あぐりガーデンでの食育のレクチャーでは、本物を小さいときから食べさせる大切さを確信しました。そのためにも、学校給食のあり方をもう一度考える機会を学校も保護者ももつ必要があるのではないかと考えています。レクチャー後の真庭あぐりガーデンでの食事は、バイオ液肥を使って育てられた野菜と米が使われています。とてもク

リリーな味で、野菜にも力があるように感じました。販売もされていて、まさしく地域循環がしっかりできている取組みです。

これから私たちが目指す社会の一端を真庭市で学びました。葛城市でも、できることからまずは始めてみるのが重要であると考えます。

2日目（午後） 岡山県真庭市 真庭市立中央図書館



研修内容

<説明者> 真庭市教育委員会 生涯学習課 図書館振興室 室長 佐藤弘敏様

真庭市中央図書館 館長 西川正様

真庭市議会事務局 参事 斎藤香織様

真庭市が9自治体合併した際の旧勝山町役場を活用して、リファイニング方式を用いて真庭市立中央図書館へと再生された。真庭市の基本理念であるバイオマス構想に基づき森林資源を活用したボイラーが設置されている。内装には地元木材がふんだんに使われ、木の温かみの感じるつくりとした。市民によるワークショップでの貴重な意見を取り入れ、市内に映画館がないことから、元の議場を活用したシアタールームが設置されており、月1回の映画の上映を実施されている。このほかにもあらゆる世代が集える居場所として、会議室、学習室、飲食スペース、キッズスペースも整備されている。さらにこの施設の周辺は古い町並みが残っており、周辺景観に配慮した外観とし地域との結びつきを重視している。

設備

施設面積 ・ 構造	敷地面積 5,806 m ² 建築面積 1,942 m ² 延床面積 3,873 m ² 地上 3 階鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
駐車場	144 台
閲覧席数	1 階／75 席 2 階／38 席 3 階学習室 グループ学習室／28 席 個別学習室／16 席 映像シアター／88 席（固定席 52） 会議室／48 席
蔵書数	一般書 73,841 冊、児童書 30,745 冊、AV 資料 1,410 点など（CD・DVD のみ、 オーディオブックを除く）（令和 4 年度末）
定期 刊行物	新聞 10 紙、雑誌 111 タイトル
インター ネット・ データ ベース	- インターネット閲覧端末 2 台 - データベース 山陽新聞社総合データベース Sandex、国立国会図書館デジタルコレクション、 法情報総合データベース（DI-Law） - Wifi 使用可能時間 無制限
ブック ポスト	南玄関と北玄関の 2 カ所に設置（開館中も使用できます）
その他 設備	自動貸出機、読書通帳機、拡大読書機、コイン式コピー機、だれでもトイレ、 おむつ替台、授乳室、点字ブロック、車椅子、ベビーカー、エレベーター、

	飲食スペース（自販機あり）など
コーナー	木のくに資料センター、郷土資料室、くらしコーナー（育児・手芸・料理・旅・趣味など）、 キッズスペース、ハートフルコーナー（大活字本、点字、ＬＬブック、手話、朗読ＣＤ）、 ティーンズコーナー、教科書（津山教科書センター 真庭分館）

出典：真庭市立図書館「真庭市立中央図書館」（閲覧：令和６年５月）

<https://lib.city.maniwa.lg.jp/library/chuo/>

■ リファイニング建築方式を採用

中央図書館は、旧勝山町役場だった建物をリファイニング方式で図書館に再生されました。リファイニング方式とは、既存建物の耐震性能を建物の軽量化や耐震補強によって現行法レベルまで向上させるとともに、既存構造躯体の約８０％を再利用しながら、建て替えの約６０～７０％のコストで、大胆なデザインの転換や用途変更、設備一新を行う手法です。當麻複合施設もこの方式で建てられる予定です。

■ コンセプト

誰もが気軽に訪れ、思い思いの時間を過ごすことができる「広場のような図書館」です。

■ 真庭市らしさの創出

真庭市の基本理念であるバイオマス構想に基づき森林資源を活用し、木質ペレットを使ったボイラーが設置されています。内装には地元木材がふんだんに使われ、木の温かみを感じます。また中層住宅の材料として利用される CLT（直交集成板）もふんだんに使用されています。ガラス張りの正面入り口には、勝山の自然が映し出され、地域に愛される場所になっているという印象です。

廃校になった学校の校歌を、図書館で歌い継いでいく取組みをされています。



■ 委員の所感

- ① 自分の好きな居場所を発見できる居心地の良い、とてもしゃれた、きれいな図書館であると感じた。
- ② ところどころ昔の市役所を残しつつ、新たにデザインされた図書館は財源の面でも効率的な施設である。少し昔の市役所をベースに作っているのでスペースなど限られた空間で建築された印象。自習スペースなど快適な部屋もあり学生が来やすい図書館であったが本を読む、借りる、勉強する以外の目的が葛城市の複合施設には必要だと感じた。林業が盛んな市でありチップの再利用で発電し市内の経済還元もうまくしている市だと感じた。生ごみ資源対策同様市長の強い方向性を感じる真庭市であった。
- ③ 本を読むだけでは来館者は減る。これからは、地域活性化のための図書館でなければならない。
- ④ 建築再生手法である「リファイニング」を用い、築37年の旧勝山振興局を中央図書館へ再生させた。既存のRC造の建物の柱や梁、外壁を最大限利用しつつ、耐震補強、用途変更、内装外装の一新、設備配管・機器の更新を行い、新築同等の耐震性と仕上がりを持つ建物へとよみがえらせた。既存建物を活用する「リファイニング」という建築手法は、産業廃棄物量を4割減、CO₂発生を約8割減とすることが可能である。

また、「真庭市バイオマス活用推進計画」により、市面積の8割を占める森林資源を有効活用し、エネルギーの域内循環を目指して、公共施設等への木質燃料利用設備の導入を実施している。中央図書館においても木質ペレットを利用したボイ

ラーの導入を行っている。年間31.7tのCO₂が削減され、地域内でのエネルギー・経済循環とともに地球環境への貢献も行っている。※設備導入にあたっては、「再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業補助金」を導入している。

中層住宅の材料として利用されるCLT（直交集成板）は、鉄筋コンクリート造、鉄骨造に比べてCO₂の排出量が少なく地球にやさしく快適な環境空間が実現できる等のメリットがある。中央図書館1階及び2階の壁、バイオマスボイラー棟の壁面に利用している。※CLTの導入にあたっては、岡山県のCLT等利用促進対策事業補助金を活用している。

葛城市におきましても當麻文化会館の複合化が「リファイニング」により実施されることになっているが、葛城市の特徴と利点を生かした素晴らしい建築再生ができるように今回の視察研修での見聞を生かして行きたい。

- ⑤ 初めて外観を見た時に施設の大きさを感じましたが、中に入ってみると意外とコンパクトで、外観のデザイン性の高さに驚きました。昭和55年竣工の建築物をリファイニングしているため、端々をのぞき込むと旧建物の外壁などが部分的に見えますが、工法を知らなければ新築であると誤認するほどです。周りの風景と一体感を持つ落ち着いた雰囲気も、市民の居心地の良さにつながっていると思います。飲食スペースに来ていた学生も、それぞれが読書や会話などを楽しんでいましたが、図書館職員とも気軽に声をかけ合っていました。館長の説明の中で、最も印象深かったのは「いい図書館は司書次第、いい建物だけでは飽きられる」という言葉です。葛城市でも、當麻文化会館が図書館を含む複合化施設にリファイニングされますが、運用面を充実させることが市民満足度を継続させると、改めて気付かされました。

- ⑥ リファイニング工法を用いられているが、旧施設の汚れが一部残っており、新しい施設との格差が目立つのが気になった。

ワークショップをどのように進められたのか詳しく聞けなかったが、おそらくそこでの意見を十分に反映したことで、利用度の高い市民からの評価も高い良い結果を生んであるのではないか。

西川館長は滋賀県で多くの図書館事務の経験を積まれており、その経験が随所に見受けられたが、このような事例は他の自治体でも多く見受けられる。優れた成果は優れた環境と担当職員的能力にある。

■ 委員長の所感

葛城市が計画している當麻複合施設の設計が真庭市中央図書館と同じということもあり、その点を意識しながら視察しました。全体に地場産の材木及びCLTをふんだんに使った内装と自然光を取り入れた空間で、大変心地よく滞在時間も長くなるのではないかと考えます。特に外観は勝山の風景が移りこんだ全面ガラス張りで、まるで新築のようですが、内部から見ると既存建物のレンガが残っていたりと、既存建物を最大限に生かしながらも、その名残もあり、大変工夫されている印象でした。

個別学習室や会議室、キッズスペースもあり、それぞれの市民のニーズにあった利用ができます。そのような工夫も市民の声をしっかり聞かれた結果であると思いました。また市民を巻き込んで運営されている点も大変参考になりました。

葛城市は複合施設であるため、更に複雑な利用状況になる可能性が大きいと考えられます。市民の声も反映させながら、設計の最終段階まで議論を尽くしていただきたいと願います。